

Live Symposium

医療連携 2017



地域医療構想下における

急性期病棟と地域包括ケア病棟の行方

—病院ビジョンに則った連携室の活動とは—

日時 2017年12月14日（木） 18:00～19:00

会場 玉島中央病院2階 新風ホール

地域における切れ目のない医療の提供に際し、医療機能の分化・連携が大変重要であることはご承知の通りです。

病院においては退院支援の強化や生活の場である地域との途切れのない連携が今後の課題であり、また、病院の連携実務者が地域における医療連携推進において果たす役割はますます重要なものになってきております。

さて、昨今の大きく変わる医療制度の中、病院における地域連携室の役割はどのように変化してきているのでしょうか。また、今後どのような変化が求められているのでしょうか。

今回のテーマは、「地域医療構想下における急性期病棟と地域包括ケア病棟の行方」です。地域における病院の運営方針の決定において、まさに地域連携室は最重要の部署であり、その最前線でご活躍のお二人の演者から院内・院外における取り組みについて本音で語っていただき、病床機能ごとの入退院支援について考える機会となれば幸いです。

《話題提供》 18:00～18:05

済生会新潟第二病院 地域連携福祉センター 斎川 克之 氏

《講演 I 》 18:05～18:25

「病院が求める地域連携室の役割」

豊見城中央病院 地域連携室 仲地 貴弘 氏

《講演 II 》 18:25～18:45


「ケアミックス型病床を活かす病床調整の取り組み」

松波総合病院 入退院センター 三輪 典古 氏

《ディスカッション》 18:45～19:00

当日は、ご施設名、ご芳名のご記帳をお願い申し上げます。

ご記帳いただいたご施設名、ご芳名は医薬品及び医学薬学に関する情報提供のために利用させていただくことがございます。何卒、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

主催  第一三共株式会社

Live Symposium

医療連携

SUMMARY

[講演要旨]

《講演Ⅰ》

「病院が求める地域連携室の役割」

地域連携室は時代の流れと共に求められる役割が変化していきます。前方重視の連携から退院調整強化のための後方連携、そして地域包括ケアシステムを目的とした地域医療連携へ変遷していると思います。当院も「地域医療に貢献する」の理念のもと、社会変遷に応じた病院ビジョンを策定しています。ビジョンに基づき日々活動を行ってきました地域連携室の取り組みについてお話いたします。

《講演Ⅱ》

「ケアミックス型病床を活かす病床調整の取り組み」

患者の病期と病床機能の特性を活かした病床コントロールを行うことは、地域包括ケアシステムの中の「切れ目のない医療を提供」の一環と位置づけられると考えます。当院では病床コントロールの円滑な運用を目的に、地域の人口動態と医療提供体制の状況を勘案し病床再編成を実施しました。同時にPatient Flow Managementを開設しました。今回は、当院独自のPFMシステムを使った病床調整の一部をご紹介します。

[会場地図]



[開催概要]

日時：2017年12月14日（木）18：00～19：00

会場：玉島中央病院 2階 新風ホール

住所：倉敷市玉島阿賀崎2-1-1

担当：地域連携課 三宅 毅 TEL：086-526-8111